

平成24年度 在宅医療連携拠点事業 厚生労働省補助



平成25年3月23日(土)/厚生労働省
沖縄県 社団法人 中部地区医師会
担当理事 西平守樹

在宅医療ネットワークの成り立ち①

(平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

中部地区医師会 宜野湾班会議の中で、「在宅での助け合いが出来るようなシステムが必要」となり、当会にて下記のとおり在宅の会議が行なわれ現在に至る。

- 平成23年 6月 8日
第1回 複数主治医制導入に関する検討会
参加人数 11名
- 平成23年 8月 3日
第2回 複数主治医制導入に関する検討会
参加者数 7名
- 平成24年 3月21日
第3回 中部地区在宅医療ネットワーク(案)
参加者数 8名
- 平成24年 6月 4日
第1回 中部地区在宅医療推進委員会
参加者数 6名
- 平成24年 6月14日
在宅支援診療所への中部地区在宅医療ネットワーク説明会 参加者数 11名

中部管内訪問看護ステーション、訪問介護サービス事業所、居宅介護支援事業所、
地域包括支援センター、病院地域医療連携室・相談室の各施設数
(平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

- 各在宅療養支援診療所・・・21施設
(うるま市:3施設、沖縄市:5施設、宜野湾市:6施設、嘉手納町:1施設、
北谷町:1施設、西原町1施設、北中城村:1施設、読谷村:3施設)
- 訪問看護ステーション・・・13施設
(うるま市:5施設、沖縄市:1施設、宜野湾市:4施設、
北谷町:1施設、北中城村:1施設、読谷村:1施設)
- 在宅介護支援センター・・・10施設
(うるま市:5施設(但し、高齢者相談センターとして)、沖縄市:5施設)
- 居宅介護支援事業所・・・102施設
(うるま市:30施設、沖縄市:27施設、宜野湾市:11施設、北谷町:8施設、西原町:5施設、
嘉手納町:2施設、北中城村:5施設、中城村:5施設、読谷村:9施設)
- 地域包括支援センター・・・12施設
(うるま市:1施設、沖縄市:1施設、宜野湾市:4施設、西原町:1施設、嘉手納町:1施設、
北谷町:1施設、北中城村:1施設、中城村:1施設、読谷村:1施設)
- 病院地域医療連携室・相談室・・・4施設
(うるま市:1施設、沖縄市:2施設、中城村:1施設)

地域包括支援センターの分布図 (平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

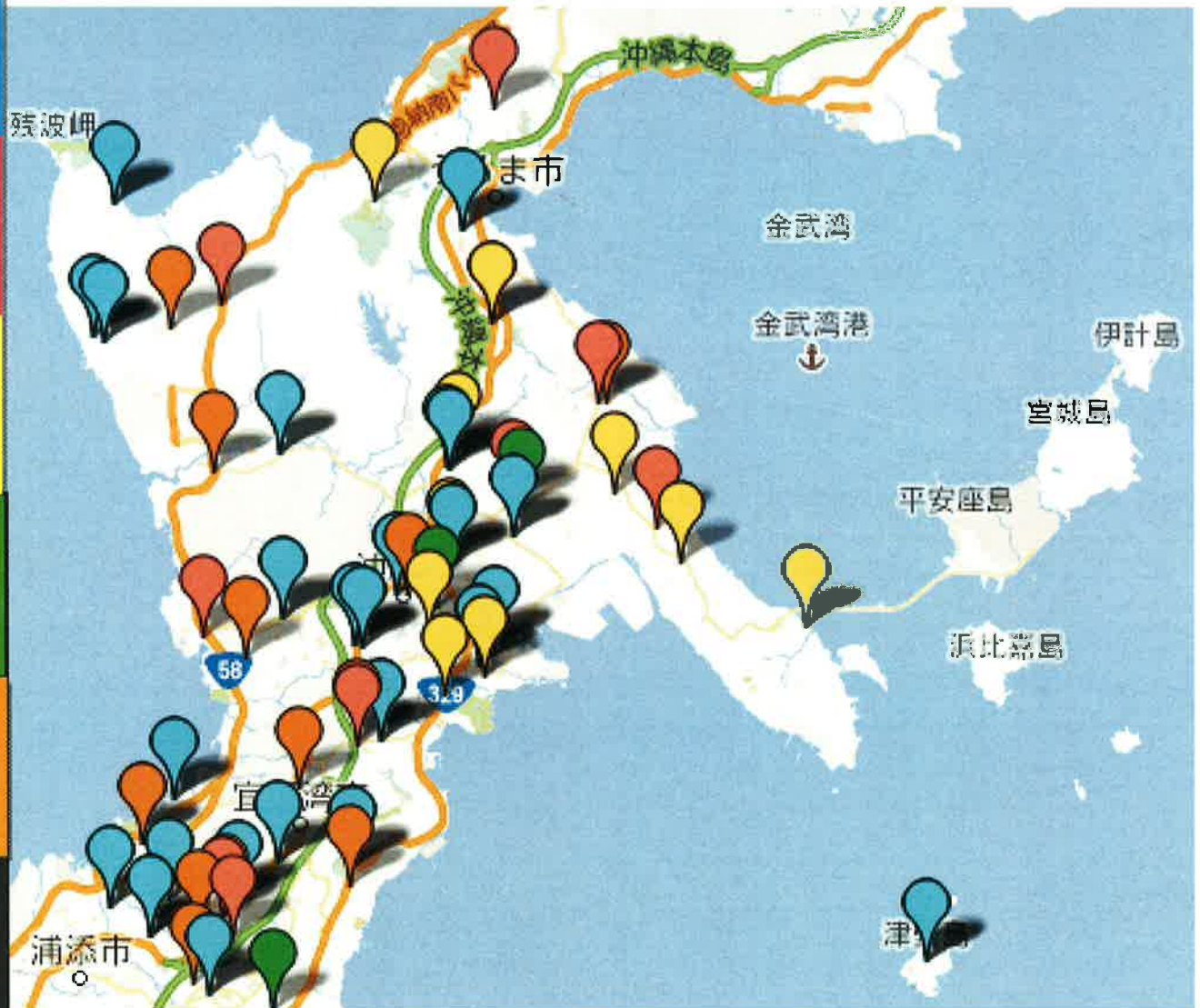
在宅支援診療所
21施設

訪問看護ステーション
13施設

在宅介護支援センター
10施設

病院地域医療連携室
4施設

地域包括支援センター
12施設



ネットワークの構築について (平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

ネットワークを統括する中部地区医師会立訪問看護ステーションをネットワークセンターとし、そこへインターネットで協力する各施設を登録していただく。



例えば医師不在の診療により訪問看護ステーションや介護サービス事業所等で問題が起こった場合の協力体制として、お互いがネット上で連絡を取り合い問題解決が出来るようにする。



平成24年 6月27日 当会会員施設・関係施設(訪問看護・介護、居宅介護、各市町村地域包括、各病院地域連携室)への中部地区在宅医療ネットワーク説明会 参加者数113名

中部地区在宅医療連携ネットワーク説明会の様子 (平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

平成24年 6月27日開催



①担当理事によるスライド説明



②説明会風景



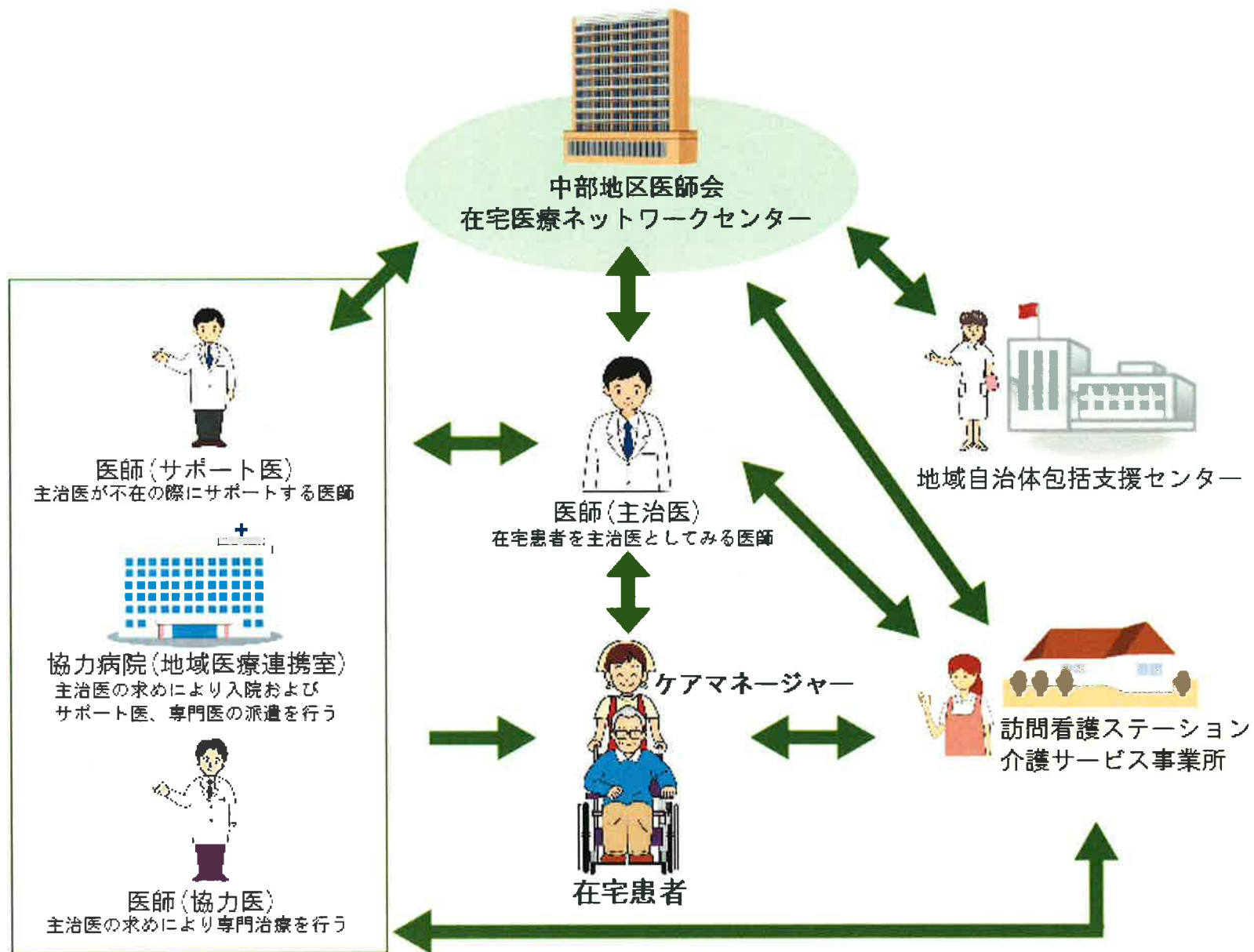
③説明を熱心に聞く参加者



④質疑応答時の風景

連携図

(平成24年度 在宅医療連携拠点事業)



中部地区在宅医療連携ネットワーク研修会の様子①

(平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

「介助時のボディーメカニク～看護・介護スタッフが負担のないケアの仕方について～」



①開会のあいさつ



②リハビリスタッフによるスライド説明



③研修風景



④リハビリスタッフによる実践研修風景

中部地区在宅医療連携ネットワーク研修会の様子②

(平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

「看護、介護職員のためのストレス解消方法、ストレスとの上手なつきあい方」



①開会のあいさつ



②講師によるスライド説明



③研修風景



④研修会を熱心に受講される参加者の皆さん

中部地区在宅医療連携ネットワーク研修会の様子③

(平成24年度 在宅医療連携拠点事業)
「多職種協働による意見交換会」



①開会のあいさつ



②看取り経験家族談



③研修風景(グループワーク)



④研修風景(K・J法によるグループワーク)

「在宅診療の問題点」 (平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

- 現状では看護師、介護士が各々で十分仕事が出来ていると考えている。
- 病院の入院患者には、医療を必要とする患者以外に、介護を必要とする患者でも、そのまま入院するケースがあり、病院の機能低下につながっている。
その為、介護が必要な患者は在宅に移行しなければならない。
- その為には、在宅医療をシステム化する必要があり、中部地区医師会では、在宅医療ネットワークの充実に向け取り組んでいる。
- ITネットワーク(サイボウズ)を構築したが、コンピューターに馴染めない人が多く、うまく機能していない。

今後の目標について (平成24年度 在宅医療連携拠点事業)

- ITネットワーク(サイボウズ)を有効活用するための方法を模索する。
- 今ある在宅医療を、更に支援できる団体としたい。
- 在宅医療を支援する為に、各病院と密に連携をとり良質な在宅医療にしたい。
- 在宅医療はそれを必要とする患者や家族が、幸せになるためには必要な事である。
そういう意識を高めるために、各病院、関連施設と連携を取りながら、在宅医療に関する情報も提供し在宅医療に係る全ての人が幸せになる方法を模索したい。